

記者発表（資料配布） 本紙を含めA4：2枚			
月／日（曜日）	担当部課名	電話番号	発表者名 （担当者名）
平成24年3月22日（木） 午後1時00分	教育委員会 教育課企画総務室	0790-82-2424	課長 坂本博美 （室長補佐 中村剛彰）

## 件名：「皆田和紙 紙すき文化伝承館」竣工式及び竣工イベントの開催について

佐用町では、「皆田和紙 紙すき文化伝承館」の完成を記念して、竣工式及び竣工イベントを開催しますのでお知らせします。

当館は、中世から昭和にかけて上月地域で行われていた製紙産業である「皆田和紙（かいたわし）」の保存と技術の伝承を目的として建設しました。

### 記

#### (1) 式典・イベントについて

- ・日 時 3月24日（土）午前10時～正午
- ・場 所 上月歴史資料館敷地内（佐用町上月373番地）
- ・当日スケジュール
  - 式典
    - 10:00～ 開館セレモニー  
感謝状贈呈（皆田和紙保存会、岡野建築設計、久崎産業）
    - 10:10～ 主催者あいさつ、来賓あいさつ
    - 10:20～ 経過報告
    - 10:30～ 閉会のことば
  - 竣工イベント（式典終了後）
    - ・和紙作り体験教室（募集人数40人。参加費一人300円。但し、事前予約が必要）
    - ・餅つきポップコーン、ポップコーン、焼きいも、ふれあい喫茶（すべて無料）
- 12:00 終了予定

#### (2) 施設について

当館は木造平屋建てで、建築面積は115㎡（延床面積80㎡）です。  
また、隣接する上月歴史資料館の付属施設です。

#### (3) 皆田和紙について

別紙資料を参照ください。

#### (4) 問い合わせ先

- 式典、施設、皆田和紙に関すること  
教育委員会教育課企画総務室 TEL:0790-82-2424
- イベントに関すること  
上月支所地域振興室 TEL:0790-86-1210

## ■皆田和紙（皆田紙）について

### ・佐用町の紙生産

佐用町で生産される紙は「かいた」紙と呼ばれました。理由は当初の生産地である皆田地区の地名と思われます。字は皆田・海田・甲斐田・開田・カキタなどの表記がみられます（“かいた”の当て字）。

### ・皆田紙初出の記録

皆田紙の最も古い記録は室町時代の文明七(1475)年の記録です。既にこの頃には出荷するだけの生産が行われているとみられることから、生産の始まりは、もう少し遡って考えても良いかもしれません。但し、始まりの頃の記録は見つかっていません。

### ・生産地

当初は皆田地区周辺と思われますが、江戸時代初期には皆田～南中山地区にかけての辺りでも行われたようです。その後は生産地が拡大し、その範囲は、北が桜山地区、南は西新宿地区、西は西大島地区を含むなど、広い地域で行われたようです。そしてこれらの紙はすべて「かいたがみ」と呼ばれていたようです。この他にも岡山県美作市五名などで生産された紙も皆田紙として出荷されていたようです。

### ・材質

皆田紙の原料は楮（こうぞ）のみです。この繊維に、接着の役割をもつトロロ葵の粘液を混ぜて、水を加えた液を作ります。そしてこの液を漉きます。

### ・紙質

紙質は専ら厚紙であったようです。襖や障子などに使われる道具紙の生産が主流と思われます。江戸時代の紙カタログ「紙譜」には“播磨海田”とあり、紙質は厚物類に分類されています。

### ・厚紙に関して

「紙譜」にはその他「(地名)海田」と記載される紙もあり（岩国海田など）、海田（皆田）紙は厚紙を指す名称の一つだったのかもしれませんが。

### ・生産終了

紙生産の終わりは、皆田地区では明治、最後まで行っていた判官地区では昭和 43 年に廃業しています。廃業理由は明治以降の洋紙の大量生産といわれます。